

# 岩田一郎町長が退任



昭和五十八年の初当選以来、四半世紀余りにわたり、旧仁多町長、奥出雲町長として行政トップを務めた、岩田一郎前町長の退任式が四月三十日、役場仁多庁舎で行われました。

式に先立ち、元岐阜県副知事、元総務省総括審議官で、現在、全国市町村国際文化研修所の長野慎一学長から、地方行政の多大な功績に対して、感謝状が贈られました。

退任式では、職員を代表して和泉副町長が、永年の功績を一つ一つ掲げながら、感謝の気持ちを言葉に託し、「優れた行政手腕と豊かな識見で、一貫した地域活性化への取り組みは、全国から高く評価されました。今後、も本町の発展に力添えをお願いします」と感謝と送別の言葉が述べられました。

岩田前町長からは、町議四期、町長時代を振り返りながら、永年支えてくれた職員、町民に対し、感謝とお礼のあいさつがありました。

仁多庁舎前では、退任を惜しみ多

くの町民、職員が集まり、あたたかい拍手が送られる中、長年慣れ親しんだ庁舎を後にされました。

岩田前町長は、就任以来「活力に満ちた健康と福祉のまちづくり」、「所得のないところに定住はない」の理念のもと、卓越した行政手腕と類まれなるリーダーシップで町行政に携わり、町長という重責を担い、町の発展に多大な貢献をされました。

これまで島根県町村会会長や全国森林環境税創設促進連盟の会長などの要職を歴任され、昨年十月には、奥出雲町が総務大臣表彰を受賞し、市町村合併のモデルとして、「過疎対策の横綱」と講評され、注目されました。

また、今年三月には麻生首相が各界から意見を聞く「有識者会議」では、全国市町村長四人のうちの一人に選ばれ、その行政手腕は全国でも高く評価されました。

- 【公職職歴】**
- 旧仁多町議会議員(4期15年8ヵ月)  
昭和38年5月10日～昭和58年2月5日
  - 旧仁多町長(6期22年1ヵ月)  
昭和58年2月22日～平成17年3月30日
  - 奥出雲町長(1期4年)  
平成17年5月1日～平成21年4月30日
- <公職として通算42年>

- 【各種団体等役員・委員歴】**
- <全国>
- ・全国森林環境税創設促進連盟会長
  - ・全国市町村職員退職手当組合連合会副会長
  - ・全国町村会理事
  - ・財団法人日本育英会評議員など
- <島根県>
- ・島根県市町村総合事務組合管理者
  - ・島根県町村会会長
  - ・島根県国保連合会理事長
  - ・島根県消防協会副会長など

## 退任式の挨拶



このたび、任期満了に伴い、町長を退任することとなりました。

その職責を務めることができたことは、職員ならびに町民の皆さんのご支援とご協力によることで、衷心より感謝とお礼を申し上げます。

振り返ってみますと、私が町長に就任した当時の旧仁多町は、県内五十市町村の内、二町村が借入金返済公債費が二十割の起債制限比率を超え、一般起債が許可されない厳しい町財政で、投資事業や産業振興施策を実施する余裕もない状況でした。

その後、起債の繰上げ償還を行い、昭和六十二年には十九割、平成五年には十・六割にまで下げましたが、町立病院も累

積欠損金があり、また、預金より借入金が多い、債務超過の状況でした。

健全化団体としての厳しい病院経営でしたが、病院長はじめ職員のご努力とその後一般会計からの繰入を行い、平成十年には累積欠損金をなくし、現在の病院を建設することができました。

また、町内の道路、特に国道三一四号線の三井野原から坂根までは、一車線の急坂で、三井野原おろちループ橋工事の着工や木次間の改良に奔走し、国道四三二号線は、広島県境から、上阿井、下阿井三成・亀高バイパスを、また、四車線の奥出雲大橋や、就任後、直ちに取組んだ、松江市に通じる主要地方道・玉湯吾妻山線は、三成大橋の架け替え、八代バイパス、懸案であった樋の谷から旧大東町まで立派な道路に改良していただいたところであります。

就任時、町内の道路網は、未改良の区間が数多くあり、大型バスの通行はもとより、日常生活にも支障をきたし、観光、産業基盤整備の遅れが目立つ状況でしたので、

就任後の行政施策は、先ず、国道・県道・町道の改良を最優先に取り組んだところであります。

一方、県政百年の大計といわれた尾原ダム建設も関係者、町議会共に、反対同盟が結成されている中、建設同意をいただき、移転三団地の造成、関係者の皆様の移住も終わり、来年度に完成することになりました。

また、照明付き人工芝ホッケー場、全天候型公認陸上競技場などのスポーツ施設整備、上下水道の着工をはじめ、有線テレビ、光ファイバー網の構築、学校幼稚園、島根リハビリテーション学院、奥出雲病院、県下初の老人保健施設の建設、また、養護・特老の建設など、生活・福祉基盤の整備も進めて参りました。

そのほか、圃場整備事業や二町によるカントリーエレベータの建設、仁多米のブランド化、奥出雲椎茸の集出荷施設の建設による一貫生産体制、奥出雲仁多もち加工場の竣工など農業基盤の整備、亀高温泉「玉峰山荘」、鉄の彫刻美術館などの諸

事業も進めることができました。

一方、横田高校男子ホッケー部の三冠達成や、女子ホッケー部の選抜二連覇、また、本町からオリンピック選手の出場など、その一つひとつに懐かしい思い出がよみがえり、つきない感慨を覚えるところでもあります。

平成十七年には、合併特例法が施行され、雲南九町村は、合併して一つの市にするという流れの中で、雲南一つでの合併では、木次・三刀屋町が中心となり、仁多・横田町のへき地は衰退が懸念され、病院については、公立雲南総合病院が核となり、仁多病院は診療所になると考えられ、旧仁多町のみは、単独町政も止むを得ないと、合併協議から離れましたが、結果、仁多、横田両町で合併ができ、全国でも例のない三月七日合併調印、三月三十一日奥出雲町の発足という、合併受付期日に一日の余裕もない、ぎりぎりの合併が出来ました。

このことは、合併の時に、合併の枠組みを決める町長の職にあつた者として、

最善の選択ができ、無上のよろこびであります。

さて、我が国の経済は百年に一度とも言われる世界同時不況の真つ只中にあり、めまぐるしく進展する現代社会の中にあつて、地域経済に直結した事業や、緊急雇用対策、また、国営開発農地の再整備補助金の創設による整備、福祉・健康づくりの諸施策など、本町が取り組まなければならぬ課題は数多くあります。

今後、新しい町長を中心に、町議会、町民の皆さんとの協働のもと、たゆまぬ努力を重ねられ、活力ある奥出雲町建設のため、更に努めていただきますよう念願するものであります。

最後になりましたが、限らない奥出雲町の発展と町民の皆様、職員の皆様方の、いよいよのご健勝とご多幸を心より祈念いたしまして、私の退任とお礼の挨拶とさせていただきます。

長い間、誠にありがとうございました。

岩田 一郎